

第3学年4組 美術科学習指導案

平成28年11月8日(火) 第5校時

授業場所 南校舎 3階 美術室

生徒数 男子20名 女子19名

指導者 教諭 豊田 純子

1 題材名 生活に生きる造形 「陶の器に、感謝の心を入れて贈ろう」

A表現 **伝える・使う：つ**

2 題材について

(1) 生徒の実態

3年生は、今後の進路決定を目前に控えた緊張感が高まる時期であるが、美術の時間を楽しみながら制作を進めている。小学校での粘土の材料体験では、ひねり出す、長くつなげる等を造形遊びや作品づくりで経験しているが、土粘土を使用するのは今回が初めてである。

生徒の美術に関しての実態は、1学年で身に付けた「観察して見て描く表現力」を基に、自然物のデザインで発想することを学び、2年生では、石彫制作で初めて立体形の発想を学んできた。しかし、「発想すること」「発想したことを絵で表す」にはまだまだ難しさを感じている生徒も少なくない。

そこで、発想トレーニングとして、単純な基本形からどんどん形を変えていく発想練習を、マインドマップに表し、「丁寧にじっくり」から「早くたくさん」描く活動の中で、自分らしい形を見つけてきた。

(2) 題材設定の理由

「すべての土は焼き物になり、その歴史は縄文時代から始まる。」そして、「土との触れ合いは、心と生活を潤してくれる。」という話から本題材に入る。「工芸」の中でもこの陶芸の題材は、土の可塑性から、加熱による硬化、そしてその歴史の深さからも興味がわく題材である。

導入では、教師自身が土の感触を楽しみ、土のかたまりを形に立ちあげていく姿を見せ、土の感触に早く触れてみたい気持ちに高める。そして、土や作品の管理の難しさも体験させながら、作品への思いを高めさせたい。

生徒には、義務教育最後の年として、「家族に感謝の心を贈ろう。」という提案をすることで、家族がその思いのこもった作品を受け取り、喜ぶ様子を想像させながら、形へと発想していく。発想の段階では「用と美」、いわゆる機能と造形美との調和を考え、家族に贈り、家庭で使ってもらえるわくわく感を常に思い描かせながら、表現する楽しさを味わわせたい。

3 題材の目標

(1) 陶芸作品の制作や鑑賞を通して、よさや美しさに関心をもち、自分の思いや形を生き生きと表現しようとする。 (美術への関心・意欲・態度)

(2) 形や加飾を独創的で豊かな発想をし、土の性質を生かして構想を広げる。 (発想や構想の能力)

(3) 構想に基づいて土の性質や技法を工夫し、土の可塑性を生かしてつくることができる。 (創造的な技能)

(4) 自他の作品のよさを感じ取り、伝え合うことができる。 (鑑賞の能力)

4 評価規準

題材の評価規準			
美術への関心・意欲・態度 関	発想や構想の能力 発	創造的な技能 技	鑑賞の能力 鑑
陶芸の表現に関心をもち、主体的に創意工夫して表したり、表現の工夫などを感じ取ったり味わおうとする。	用途や機能、使用する人の気持ちなどから、形や色彩の効果、材料の特性を生かした美しさなどを考え、表現の構想を練る。	表したい形のイメージをもちながら、意図に応じて材料の特性を生かし、制作の順序などを考え創意工夫して表現する。	作品の形や色彩の美しさ、使う人に対する心遣い、生活の中のデザインの働きなどを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わう。
学習活動における具体の評価規準			
①継続的に意欲をもちながら主体的に表現しようとしている。 ②必要な用具を選び、独創的に表現しようとしている。	①複数の独創的な形を発想をし、構想を練っている。 ②土の特性を考えながら目的に合った形の工夫や多様な加飾を考えようとしている。	①土の特性を効果的に生かし、構想に応じた成形をしている。 ②制作の手順を考え、正確な成形方法で表現している。	①表現の意図や成形方法・加飾を理解し、その美しさを感じ取ろうとしている。 ②根拠を明確にして、作品のよさを感じ取り、言葉で伝えようとしている。

5-① 指導計画 (10時間扱い)

第1次	感受・課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・陶芸作品の鑑賞 ・陶芸の制作過程・成形方法 ・制作に必要な道具・準備を知る。 	1時間
第2次	発想・構想	<ul style="list-style-type: none"> ・発想トレーニング ・形の発想・アイディアスケッチ ・完成図の素描と成形方法の計画を立てる。 	2時間
第3次	制作	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に合う成形方法で、成形する。 (板づくり・ひもづくり・型おこし・手びねり・二つわり) ・加飾(線彫り・はり付け・型押し・削り・穴あけ) ・乾燥 	6時間 (本時8/10)
第4次	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・展示、自他の作品の鑑賞会 	1時間

5-② 題材の指導計画及び評価計画

時間	○学習活動・予想される生徒の姿 言語活動 言 〔共通事項〕との関連 ア_____ イ_____	☆指導上の留意点 ★評価 〔共通事項〕との関連 ア_____ イ_____
1次	○陶芸作品の鑑賞をする。 ・縄文土器の造形の正確さと美しさを探し発表し合う。 言 ・日常の中の陶器のよさを鑑賞する。 ○陶芸の制作過程を知る。	☆縄文土器の造形の正確さと美しさを探し発表し合わせる。 ☆日常の中の陶器のよさを鑑賞させる。 ☆工芸の役割を理解させる。 ★どのような方法で成形し、加飾したのか想像している。 鑑 【発言・つぶやき】 ★土で形をつくり、焼成した作品のよさを味わわせる。 関 【鑑賞の様子】 ☆採土された土を見せ、土練りから陶土になるまでを見せる。

	<p>○成形方法を知る。</p> <p>○制作に必要な準備するものを知る。</p>	<p>(採土→土練り→成形→加飾→乾燥→素焼き→施釉→本焼きの過程について、陶土を用いて説明をする。)</p> <p>☆土を練る理由を理解させながら実際に土を練る。</p> <p>☆水分を含んだ陶土、乾燥した陶土、素焼きした作品の色と大きさの変化に気付かせる。</p> <p>☆板づくり、ひもづくり、手びねり二つ割り、ろくろづくりの成形方法を実際に見せる。</p> <p>☆陶土の適度な柔らかさは耳たぶを触らせて感触を手に覚えさせる。</p> <p>☆板づくり、ひもづくり、手びねり二つ割り、ろくろづくりの成形方法を実際に見せる。</p> <p>☆成形で使用する用具の使い方については、実際に成形しながら説明する。</p> <p>★スケッチブックにイラストで成形方法や用具を描きながら説明を記述している。</p> <p style="text-align: right;">関【スケッチブック】</p>
2次	<p>○発想トレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立体の基本形を少しずつ変化させ、独創的な形にまで変化させる練習をマインドマップの方法で描く。 <p>☆発想したマインドマップをグループで見合い、互いに鑑賞し合う。言</p> <p>○創りたい形の発想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用と美の両面を兼ね備えたものをイメージし、アイデアスケッチをする。 ・発想トレーニングでたくさんの形を描く。 <p>○成形したい形を、陰影を付けて実物と同じ大きさに描き、成形計画を書き込む。</p>	<p>☆立体の基本形を中心に描き、その形を少しずつ変化させ、独創的な形にまで変化させる練習をマインドマップの方法で紙面に広げていかせる。</p> <p>☆発想したマインドマップをグループで見合わせ、互いに鑑賞させる。</p> <p>☆限られた時間にたくさん発想させる。</p> <p>★1ページに1種類の立体で発想させ、いくつ発想できたかを記録させる。</p> <p style="text-align: right;">発【スケッチブック】</p> <p style="text-align: right;">鑑【発表の様子】</p> <p>☆家族に贈ることを目的に、どこでどのように使ってもらうか(用)家族が喜んだりびっくりするようなかたち(美)の両面を兼ね備えたものをアイデアスケッチさせる。</p> <p>☆発想トレーニングで描いたかたちを、抽象形としてさらに練り上げてよいことや、具象形も工夫次第で面白くなることを伝える。</p> <p>★アイデアスケッチを、メモするようにたくさん描いている。発【アイデアスケッチ】</p> <p>☆成形したい形の形の完成予想図を実物の大きさに描かせ、厚みも描かせる。</p> <p>☆加飾について、凹凸が分かるように描かせる。</p> <p>☆どの成形方法で用具は何が必要か矢印で記入させる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 成形したい形の完成予想図を描く。 加飾について、凹凸が分かるように描く。 成形方法や用具で何が必要か記入する。 	<p>☆成形方法については、適切な制作過程がとれるように助言をする。</p> <p>★鉛筆の素描の基本を確認し、明暗表の濃淡をしっかりと入れさせる。 技【成形デッサン】</p> <p>☆準備と片付けの方法、陶土と作品の保管方法を知らせる。</p>
3次	<p>○成型・加飾</p> <p>①机上の準備確認</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで用具の準備を分担する。 成形デッサンを正面に置き、机上の用具の確認をする。 爪と成形手順の確認をする。 <p>②成形底面づくりから</p> <ul style="list-style-type: none"> どべは容器を持って順番に取りに行く。 厚さを均一した板づくりで底面をつくる。 それぞれの方法で成形する。 <p><手びねり> 手のひらサイズの形は手びねりから、かき出す方法</p> <p><板づくり> たたら板を両側に置き、のし棒でのした板をへらで切断、そのパーツをどべで接合していく方法</p> <p><ひもづくり> 親指くらいの太さひもづくり、親指と人差し指で下に圧着しながら積んでいく。そして1本巻くごとに内側を指べら（中指の腹）でひもの跡を消していく方法</p> <p>③保管</p> <ul style="list-style-type: none"> 表面に、手ぬぐいで適度に水分を与え、ラップで巻き、ビニル袋で覆う。 <p>④加飾</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が持ち寄った用具で、様々な加飾を試みる。 	<p>☆どべは、ふた付き容器に多めにつくっておく。</p> <p>☆のし棒は、力を入れすぎず1回のしたら裏返すことを再度確認する。</p> <p>☆かき出しべらは、回しながら陶土をかき出し、厚みが均一か指の腹で確かめるようにする。</p> <p>☆接合は、どべをたっぷり付け圧着し。さらに細い陶土で補強させるようにする。</p> <p>☆太さが均一なら短くてもよいことを知らせる。</p> <p>☆外側に開いていくことが多いため、内側のひもの跡を指で消すときは、反対の手のひらで包むように支えて成型するようにする。</p> <p>★用具を自分の表現に合わせ、適切に扱おうとしている。 技【制作中の作品】</p> <p>★こだわりをもって制作したり、面白い加飾をしたりしている。 技【加飾中の作品】</p>
4次	<p>○鑑賞会</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞用紙に自己評価し、乾燥させる段階のものを鑑賞する。 	<p>☆メッセージカードの交換後スケッチブックに貼らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付きの違いや、よさを味わっている。 <p>鑑【鑑賞カード】【発表】</p>

6 準備するもの

【教師】縄文式土器（レプリカ）、身近な陶器、陶土の産地地図、陶土、素焼きの作品、どべ（乾燥した陶土を砕き水に溶かしておく）、のし棒、たたら板、へら、かき出しべら、直径の異なるビニル製の水道管（5～12cm）、釉薬、釉薬色見本、回転台、乾燥棚

【生徒】教科書、スケッチブック、鉛筆、靴箱程度のふた付きの缶、手ぬぐい、釣り糸50cm、ラップ、フォーク、どべを入れるふた付き容器、ビニル袋（陶土、作品保管用）、加飾に必要な用具

【場の設定】・土の乾燥を防ぐため、風を入れない室内で、土に不純物が入らないように机の上はよく拭かせる。

・流しにはバケツを置き、底に土を沈殿させ、排水溝に流れないようにする。

・制作の見通しをもたせるため、完成までの流れを表示しておく。

7 本時の計画

(1) 目標 どんな加飾や形の工夫があるかを考え、いろいろな用具や材料で工夫して加飾をする。

(2) 準備 【教師】陶土、へら、のし棒、たたら板、加飾用具（縄目、ブラシ、くし）

【生徒】陶芸7点セット、加飾に使用するもの

①手ぬぐい②ラップ③ビニル袋④カップ⑤釣り糸⑥フォーク⑦ふた付きの箱

(3) 展開

時間	○学習活動 ・予想される生徒の姿 言語活動 言	☆指導上の留意点 ★評価 ▲Cの状況の生徒への手だて 〔共通事項〕との関連 <u>ア</u> <u>イ</u>
導入 5分	○前時までの確認 ○掲示してある制作の流れから、自分の現在地を知る ・「よし、順調だ。」「まだ、全体の形が見えてないな。」 ○本時の目標の確認	☆机上の準備を確認する。 ☆これまでの制作工程を振り返らせ、活動内容を理解できるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">提案1 発想は広がる。デザインは進化させてよいのです。</div> ○1つの作品から、どのようなデザインの広がりがあるか考えてみよう。 ・「どのような模様が合うかなあ。」 ・「どのような加飾の方法があるのだろう。」 ・「完成図を進化させていいんだね。」	☆線、面で抽象形として表したり、具象形で表したりと、発想の広げ方を確認する。 ★根拠を明確にして、作品のよさを感じ取り、言葉で伝えようとしている。 鑑 ②
展開 40分	○探してきた材料や用具から、どのような加飾ができるか考えてみよう。 ○加飾を平板の土に多様な方法で試す。 言 ・「線彫りは陰がかっこいいな。」 ・「鉛筆でもいろんな模様ができるな。」 ・「これってスタンプみたい。」 ・「はり付けるもの、考えなくなった。」 ・「型をつくってみようかな」 ・「指の跡だって味わいあるよね。」	☆身の回りにあるものを、用具として使うことで、 <u>どのような模様ができるか、イメージできたか、実際に試させる。</u> ☆はさみ、ニードル、糸、アルミ製の針金、バネ、葉脈のはっきりした葉、絞り口、ストロー、スプーン、フォークなどを準備させ、どのような加飾になるか想像させていく。 ☆生徒の発想からでなかったものを紹介し、組み合わせの工夫も付け加える。

	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">提案3 加飾の工夫で、世界に1つだけの器にしよう。</p> <p>○制作計画に従って、必要な用具を用いて成形・加飾をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「組み合わせるのも面白そう。」 ・「試してからでもいいですか。」 <p>○後ろの机の上に平板の土を置き、確認したい技法を見に行く。</p>	<p>☆個々の表現意図をくみ取り、適切なアドバイスをする。</p> <p>★土の特性を考えながら目的に合った形の工夫や多様な加飾を考えようとしている。</p> <p style="text-align: right;">[発②]</p> <p>★制作の手順を考え、正確な成形方法で表現している。</p> <p style="text-align: right;">[技②]</p> <p>☆はり付けのどべはたつぷりと、型押しは内側に手を当てながら制作させる</p> <p>▲形の成形中、ゆがみや、立ち上がり開いてしまった作品には、圧のかけ方や、修正の仕方をアドバイスする。</p> <p>☆自分なりに工夫した用具の使い方をしてい る 生徒を賞賛する。</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>○本時のまとめをする。</p> <p>○友達の作品のよさを発想アドバイザーが発表する。</p> <p>○本時の制作について、自己評価し、次時の確認をする。</p> <p>○用具の片付けと作品の保管</p>	<p>★表現の意図や成形方法・加飾を理解し、その美しさを感じ取ろうとしている。</p> <p style="text-align: right;">[鑑①]</p> <p>☆次時への見通しや、意欲をもって望めるよう改善点、準備を伝える。</p> <p>☆作品の細部と乾燥に注意し保管させる。</p> <p>☆班で協力して片付け、係の用具・机上点検をさせる。</p>